



次期学習指導要領等に向けた 審議まとめ①

全体理念と3つの方向性について

生涯にわたり主体的に学び続け、多様な他者と協働して社会を形成する人材を育てるため、授業(教育課程内)だけでなく学校生活全体を通して、以下の3つの方向性を三位一体で推進します。

1 「主体的・対話的で深い学び」の実装(Excellence:質の高い教育)

・背景と課題 ➡ 「深い学び」を各教科の授業でどう実現するか、まだ現場でイメージを掴みきれていない課題があります。

・AI時代における「確かな知識」の意義

暗記や単純作業はAIが得意な時代になりました。しかし、「AIに適切な問いを立てる」「情報の正しさを判断する」「意思決定する」には、人間の知識が必要です。単なる暗記ではなく、意味を理解し、思考・判断・表現で使える「身体化された知識(確かな知識)」の獲得を目指します。

【主な取組】

- 学習指導要領の構造化・表形式化・デジタル化による使いやすさの向上
- 学習の自己調整や学習方略の指導による「個に応じた学習過程」の充実
- 小学校「情報の領域」、中学校「情報・技術科」の創設と情報活用能力の抜本的強化
- リアルとデジタルのバランス:ICTを活用しつつ、実体験や対話といったリアルな学びも大切に。

2 多様性の包摂(Equity:公正性)

・背景と課題 ➡ 不登校、障害・認知特性、外国籍、特異な才能、経済的課題など、子供の多様性が顕在化しており、従来の一律な授業スタイルだけでは、全員の力を伸ばすことが困難になっています。

・教育的価値 多様な子供たちが共に学び、対話や試行錯誤を重ねること自体が、民主的で持続可能な社会の担い手を育てる重要な学びになります。

【主な取組】

- 教育課程の柔軟化を図る「調整授業時数制度」の創設
- 高等学校における単位制の大幅な柔軟化
- 校内外教育支援センターに通う不登校児童生徒や、特定分野に特異な才能のある児童生徒に関わる「特別の教育課程」の充実

3 実現可能性の確保(Feasibility:実現可能性)

・背景と課題 ➡ 働き方改革との整合を図り、教師の負担や努力に過度に依存しない持続可能な仕組みづくりが必要です。

・「余白」の創出 教師と子供双方に時間的・精神的な余裕(余白)を生み出し、創意工夫や研修、自律的な学習の時間に充てます。

【主な取組】

- 学習指導要領の内容精選とそれに伴う教科書の精選
- 単元ベースでの授業設計、授業時数や週コマ数の適正化・平準化
- 形骸化した取組の見直し(カリキュラム・マネジメントの適正化)

次期学習指導要領等に向けた審議のまとめについて(報告)、その概要をまとめています。2028年度から移行期間となります。方向性について、おおまかにイメージを持っておくことが大切です。詳しい内容につきましては、[文部科学省のホームページ](#)でご確認ください。